

学校再建

地震で損壊した学校の多くは、今もなお仮設のプレハブ校舎で授業を行っています。多くの学校では机や椅子など、再利用できるものは、がれきの中から拾い出して使っています。

また、中国では家が遠い場合、生徒が学校の寮で暮らすのも一般的ですが、宿舎や食堂も被災したため、非常に狭いプレハブ宿舎などで2人で一つのベッドを共有せざるを得ない厳しい状況も見られます。

日赤は被災した3省(四川省、甘肅省、陝西省)で合計14校の学校再建の支援を行っています。これらの学校の多くは2009年4月以降順次着工しており、約1年で完成する予定です。また、特に仮設施設の条件が厳しかった陝西省の学校の一部は早めに着工し、一部はすでに完成しています。 ©日本赤十字社



倒壊した農村の小学校(甘肅省隴南市徽県)



日赤の支援で完成した学校第1号(陝西省漢中市城固県)



激震地の中学校のプレハブ宿舎(四川省広元市青川県)



多くの学校は現在も仮設プレハブなどで勉強中(甘肅省隴南市徽県)



小学校再建の鋳入れ式に参加した日赤職員(中央)(四川省綿陽市游仙区)